CEFRの日本の外国語教育・日本語教育における受容の実態

博士前期課程
言語応用専攻　日本語教育学専修コース
浜津 大輔
2013年2月1日

1

発表の流れ

1. 英語教育
   - CEFRjapan
2. 英語以外の外国語教育
3. 日本語教育
4. まとめ
5. おわりに：修士論文について

2

3

CEFRjapan

「第二言語習得研究を基盤とする小、中、高,大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究（小池科研）」

問題意識（小池2008,2009）

- 英語は事実上、国際社会でのコミュニケーションツールとなっている。
- TOEFL平均スコアの伸びは周辺各国の中で日本が最低。
- 学習指導要領による提出語彙数は周辺各国の中で最も少ない
- 英語教科書の構成を周辺各国比較

現状のままでは日本は国際コミュニケーションの世界から取り残されるという危機感から、日本の英語教育の改革の必要性を主張している。

4

CEFRjapan

「第二言語習得研究を基盤とする小、中、高,大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究（小池科研）」

CEFRjapanの構築（小池2008,2009）

- 国際基準であり、かつ日本人の文化に対応できる柔軟性を持つCEFRを応用する。
- 国際的に活躍するビジネスパーソンの英語レベルをC2とし、そこに到達するための中間目標を学校段階別に設定。（学部卒業でC1～B2、高校卒B2、中学A2など）
- 英語教育に学校段階を超えた連続性を持たせる。（「履修主義」から「習得主義」へ）

CEFRの尺度の普遍性、基準の汎用性を取り入れ、日本の英語教育に一貫性を持たせる。
国際基準であるCEFRの応用により、国際的に通用する英語力を養成する。

5

発表の流れ

1. 英語教育
   - CEFRjapan
2. 英語以外の外国語教育
   - 大阪大学外国語学部（旧大阪外国語大学）
   - 慶應義塾大学外国語教育研究センター
3. 日本語教育
4. まとめ
5. おわりに：修士論文について

6

大阪大学外国語学部（旧大阪外国語大学）

問題意識（真嶋2007,2010）

- 教育実践の目標の明確化
- 学生のニーズに合ったカリキュラムの必要性
（専攻語で話せるようになりたい、何を習った
のかよく覚えていない、留学帰りの学生の処遇etc）
- 教員間の連携の不足（たこつぼ化）

大学の教育を学生、社会のニーズに合わせ、かつ言語教育を専門としない教員のニーズに応えるためにどうすればよいか。

7

大阪大学外国語学部（旧大阪外国語大学）

CEFRを応用した改革（真嶋2007,2010）

- すべての専攻語科に対し、各段階での到達目標を4年間一貫の尺度で検討するよう要請。
- 各段階での到達度はCan-Do Statementsで表示
- CEFRの専門家を招いて研究会を開催

「共通性」「透明性」といったCEFRの特徴をふまえた、各専攻語での評価の共通基盤が作成された。
・すべての専攻語科が4年間一貫での外国語学習の到達度目標を公表。（うち9専攻でCEFRのレベル記述）
・HPで公開することで、社会への説明責任や学生の自律学習を促す結果を生んだ。

大阪大学外国語学部 専攻語到達度評価については URL: http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/kyoumu/ns/st.html を参照。

8

行動中心複言語学習プロジェクト（AOPプロジェクト）（慶応義塾大学外国語教育研究センター 2011）

文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業
（2006年度～2011年度）

目的

① 小学校から大学院、さらに卒業後まで全学習ステージを包括的に捉え外国語学習の一貫性を高めること
② 行動中心自律学習を支援・促進すること
③ 異文化交流の機会を大幅に増やし複言語・複文化能力を開発すること
（慶応義塾大学外国語教育研究センター 2011）

9

行動中心複言語学習プロジェクト（AOPプロジェクト）（慶応義塾大学外国語教育研究センター 2011）

プロジェクトの内容

1.言語教育政策提言ユニット
-プロジェクト統括
-「慶応義塾外国語教育グランドデザイン（提言）」を策定
2.行動中心・複言語複文化能力開発ユニット
-小中高大の英語一貫教育
-学生の複言語・複文化能力養成のためのカリキュラム策定
3.自律学習環境整備ユニット
-自律学習のための設備、教授法、教材の開発

10

発表の流れ

1. 英語教育
   - CEFRjapan
2. 英語以外の外国語教育
   - 大阪大学外国語学部
   - 慶應義塾大学外国語教育研究センター
3. 日本語教育
   - JF日本語教育スタンダード
   - 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案
   - JLC日本語スタンダーズ
4. まとめ
5. おわりに：修士論文について

11

JF日本語教育スタンダード（国際交流基金）

問題意識

- 国内外での日本語学習者の増加
- 日本語学習者の年齢構成やニーズの多様化
- 従来の各国・地域の事情に合わせた日本語教育事業は到達点に過ぎず、今後の国際情勢の変化の中で日本語教育に対するニーズも変化しうる。

・学習者の学習目的、また教授側の教授法、コースデザイン、教員養成を考える為の共通基盤が必要。
・今後の国際情勢の中で、日本語の位置づけを明確にする必要がある。（国際交流基金 2009）

12

JF日本語教育スタンダード（国際交流基金）

理念：「相互理解のための日本語」（平高2010ほか）

- 日本語は国籍や民族を超えて世界各地で使用される。→「日本語人」
- 「相互理解のための日本語」は、「日本語人」が共同で課題を解決するためのツール。

・日本語の熟達度をA1からC2までの6段階で記述
・各段階での言語行動をCan-doで記述し、関係者で共有できるようデータベース化（みんなのCan-Doサイト）
・ポートフォリオを使った学習管理
・将来的にCEFRの枠組みへの参入も視野に。（嘉数2008）

JF Can-do一覧　カテゴリーごと

No.	種類	レベル	技能	カテゴリー	話題トピック	JF Can-do（日本語）	JF Can-do (English)
1	活動	B2	受容	講演やプレゼンテーションを聞く	旅行と交通	観光地で、建築物の特徴や歴史的変遷などについて、ガイドによる詳しい説明を聞いて、要点を理解することができる。	Can listen to detailed explanations by a guide at a sightseeing area about, for example, the features of buildings and historical transitions, and understand the main points.
2	活動	B2	受容	講演やプレゼンテーションを聞く	学校と教育	所属する学会の研究会などで行われる講演や発表を、スライドやハンドアウトなどを見ながら聞いて、要点を理解することができる。	Can listen to a lecture or presentation during a seminar held by an academic society one belongs to, for example, while looking at slides, handouts, etc., and understand the main points.
3	活動	B1	受容	講演やプレゼンテーションを聞く	旅行と交通	発音と内容がはっきりしていれば、観光ガイドによる名所や名物などの簡単な説明を聞いて、主要な情報を理解することができる。	Can listen to simple explanations about famous sights, local specialties and other features by a tour guide and understand the main pieces of information, if the pronunciation is clear and the content is well-articulated.
4	活動	B1	受容	講演やプレゼンテーションを聞く	食生活	発音と内容がはっきりしていれば、食習慣や栄養バランスなど、食育に関する簡単な講演を聞いて、主要な情報を理解することができる。	Can listen to simple lectures about eating habits, nutritional balance, and other issues in dietary education, and understand the main pieces of information, if the pronunciation is clear and the content is well-articulated.
5	活動	B1	受容	講演やプレゼンテーションを聞く	学校と教育	発音と内容がはっきりしていれば、大学のゼミなどで、自分たちの専門に関する発表を聞いて、主要な情報を理解することができる。	Can listen to simple presentations about people's specialties at a university seminar, for example, and understand the main pieces of information, if the pronunciation is clear and the content is well-articulated.
6	活動	B2	受容	掲示やアナウンスを聞く	住まいと住環境	屋外スピーカーから流れる防災のお知らせや行方不明者の捜索協力依頼など、地域の広報アナウンスを聞いて、理解することができる。	Can listen to and understand local PR announcements through an outdoor speaker, such as fire announcements and requests for cooperation in searching for missing persons.
7	活動	B2	受容	掲示やアナウンスを聞く	自由時間と娯楽	美術館や博物館などで、展示物の前で流れる音声ガイドによる詳しい説明を聞いて、要点を理解することができる。	Can listen to detailed explanations by an audio guide that plays in front of an exhibit display at an art gallery, museum, etc. and understand the main points.
8	活動	B2	受容	掲示やアナウンスを聞く	仕事と職業	異動先の部署で、同僚から業務の細かい手順や注意すべき点などについての詳しい説明や指示を聞いて、理解することができる。	Can listen to and understand detailed explanations and instructions about complicated work procedures and points of note from a coworker at the department one has transferred to.
9	活動	B1	受容	掲示やアナウンスを聞く	自由時間と娯楽	発音がはっきりしていれば、スポーツクラブなどで、スタッフによる施設の利用方法やクラスの受講方法などの説明や指示を聞いて、理解することができる。	Can listen to and understand explanations and directions from a staff member about using the facilities, taking classes, etc. at a sports gym or other facilities, if the pronunciation is clear.

http://jfstandard.jp/pdf/JF_Cando_Category_list.pdf より（2013年1月28日アクセス）

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案（文化審議会国語分科会 2010,2012）

問題意識

- 定住外国人が直面する問題（子女の不就学、雇用、住居・・・「生活者」）
- 彼らに対する従来の日本語教育における問題
  - ○ まとまった学習時間を確保し、継続的に日本語教室に通うのが困難
  - ○ 「生活者としての外国人」に対する日本語教育方法が確立されていない
  - ○ 多様な学習ニーズに十分にこたえられていない
  - ○ ホランティアに過度の負担を強いている

・・・国が各地域における多様な 日本語教育の実践の指針となる標準的な教育内容を具現化するものとして,標準的なカリキュラム案を示す必要がある。（文化審議会国語分科会2010 ,p.2）

15

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案（文化審議会国語分科会 2010,2012）

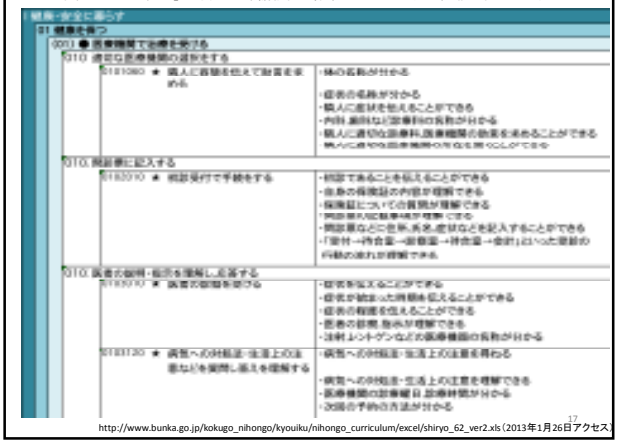
「カリキュラム」の目標

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、相互理解を図り,社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

・生活上の事例を挙げ、その具体的な言語行動を下位項目としてCan-Do Statementsで表示。
・「日本語学習ポートフォリオ」を提案、学習者と指導者の両方にわかりやすい能力記述。

16

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案　能力記述の一例



17

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/excel/shiryo_62_ver2.xls（2013年1月26日アクセス）

JLC日本語スタンダーズ（東外大留学生日本語教育センター（JLC））

問題意識

- JLCの１年コース（予備教育）学生の質、国籍の多様化。
- JLCで行われてきた教育内容や教員の持つノウハウの可視化。
- キャンパス移転に伴う教育環境の変化。

教師それぞれが体得し、教育の指針としている各レベルの学習教育目標を（中略）目に見える形で作成し、教員全体の自覚的な共通認識としようとする機運が生まれた。
（東京外国語大学留学生日本語教育センター 2011,p.2）

18

JLC日本語スタンダーズ
（東外大留学生日本語教育センター（JLC））

特徴

- 2006年に初版。改訂を繰り返し、現在は2011年版が最新。
- 「アカデミック・ジャパニーズ」に特化。
- 「読む」「聞く」「話す」「書く」「聞く話す」の5技能。
- 初級前半、初級後半、中級前半、中級後半、上級の5段階。
- Can-Do Statement による行動目標とスキルの記述。
- 各学習段階で扱われる教材や授業内容の例を明示。

改訂作業は継続中。
「『JLC日本語スタンダーズ』は常に進化していくものである。」
（東外大留学生日本語教育センター 2011）

http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/jlc-gp/doc/standards-j.pdfより（2013年1月27日アクセス）

20

発表の流れ

1. 英語教育
   - CEFRjapan
2. 英語以外の外国語教育
   - 大阪大学外国語学部
   - 慶應義塾大学外国語教育研究センター
3. 日本語教育
   - JF日本語教育スタンダード
   - 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案
   - JLC日本語スタンダーズ
4. まとめ
5. おわりに：修士論文について

21

4. まとめ

- CEFRの応用に関する問題

単一言語主義的応用

CEFRjapan

・ビジネスパーソンを目標とするのは学校教育として問題。
・言語の機能的側面のみに注目し、文化的側面を捉えていない。
・国際化の時代に英語単一主義に陥っている。
（西山2009、拝田2011、境2009）

JF日本語教育スタンダード

・日本語以外の言語も十分な社会的地位を持つことが謳われていてもいいのではないか（山本ほか2009）
・孔子学院（中国）や韓国語世界化財団の自国語普及の動きと軋轢を生む。（西山2009）

22

4. まとめ

- CEFRの応用に関する問題

CEFRの技術的、機能的側面に関心に注目した応用
（評価の共通性、透明性、
Can-Do Statementsによる到達目標の明確さ）

・「原因の一端は、これまでの日本の評価制度で客観性や透明性が十分に確保されていない点にある。（西山2009）
・CEFRの社会的側面や複言語教育の実践やその意義を訴える教育などについて、十分に検討を進めていない。
（西山2009）
・日本でのCEFRの受容の多くは、Can-do Statementsの応用とそれによる評価を取り入れたもので、複言語・複文化主義は間接的に言及されるのみにとどまっている。（Sugitani and Tomita 2012）

23

発表の流れ

1. 英語教育
   - CEFRjapan
2. 英語以外の外国語教育
   - 大阪大学外国語学部
   - 慶應義塾大学外国語教育研究センター
3. 日本語教育
   - JF日本語教育スタンダード
   - 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案
   - JLC日本語スタンダーズ
4. まとめ
5. おわりに：修士論文について

24

修士論文について

研究テーマ（仮）

ニューカマーへの日本語教育への複言語・複文化主義の応用への一考察
ードイツと日本における自国語教育政策の分析からー

問題意識

・CEFRを日本で応用する試みは、主に学校教育、高等教育での外国語教育分野で行われているが、その理念である複言語・複文化主義やCEFRが策定された欧州の状況を歴史的社会的に分析したものは少ない。
・日本国内では定住外国人の数が年々増えており、彼等に対する日本語支援の必要性が増大している。
・複言語・複文化主義は、外国語教育の目的を言語学習を通じた個人の異文化対応能力の育成に置き、他者理解と欧州の平和安定を目的とする。
・複言語・複文化主義は日本国内の国際化状況における日本語教育の方向性に何らかの示唆を与えるのではないか。

研究目的:

複言語・複文化主義のニューカマーへの日本語教育への応用可能性を検討するため、欧州評議会による言語政策およびドイツの自国語教育政策と日本国内のニューカマーへの日本語教育の状況を分析し、考察する。

25

参考文献

Sugitani, M. & Tomita, Y.(2012),"Perspectives from Japan." Byram, M. & Parmenter, L.(ed) *The Common European Framework of Reference – The Globalisation of Language Education Policy* -.. Multilingual Matters, pp.199-211

岡 秀夫（2008）,「英語教育の基準を求めてー日本版CEFRへの取り組みー」,『英語展望 第116号』,pp.18-23,p.80

嘉数勝美（2008）,「ヨーロッパ言語共通参照枠組み（CEFR）と日本語教育ーアイデンティティとユニバーサリティをめぐってー,『応用言語学研究』No.10,pp.9-16

金田智子（2010）,「日本語教育におけるCEFR応用の試み」,『英語教育』2010年10月増刊号, pp.64-67

慶応義塾大学外国語教育研究センター（2011）,『行動中心複言語学習プロジェクト Action Oriented Plurilingual Language Learning (AOP) Project』（平成18年度～平成22年度文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業 学術フロンティア推進事業 研究成果報告書

小池生夫（2008）,「世界基準を見据えた英語教育ー国家的な危機に対応する小池科研の研究成果と提言ー」,『英語展望 第116号』,pp.14-23

小池生夫（2009）,「CEFRと日本の英語教育の課題」,『英語展望 第117号』,pp.14-19, p.80

国際交流基金（2009）,「JF日本語教育スタンダード 試行版」

境一三（2009）,「日本におけるCEFR受容の実態と応用可能性についてー言語教育政策立案に向けて」,『英語展望 第117号』,pp.20-80

坂本恵（2007）,「留学生が日本の大学で学ぶために必要な日本語能力指標について」,『東京外国語大学 留学生日本語教育センター論集 33号』,pp.97-110

東京外国語大学留学生日本語教育センター（2011）,「JLC日本語スタンダーズ 2011改訂版」

東京外国語大学留学生日本語教育センター（2011）,『世界的基準となる日本語スタンダーズの構築 報告書』

26

参考文献

投野由紀夫（2010）,「CEFR準拠の日本版英語到達指標の策定へ」,『英語教育』2010年10月増刊号, pp.60-63

富谷玲子（2010）,「地域日本語教育批判 ーニューカマーの社会参加と言語保障のためにー」,『神奈川大学言語研究 第32号』,pp.59-78

西山教行（2009）,「『ヨーロッパ言語共通参照枠』の社会政策的文脈と日本での受容」,『言語政策』, 5 , pp. 61-75

西山教行（2010）,「複言語・複文化主義の受容と展望」, 細川英雄・西山教行編『複言語・複文化主義とは何か ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』,くろしお出版,pp. v -ix

拝田清（2011）,「日本の外国語教育における複言語主義導入の妥当性 ーCEFRの理念と実際からー」,『言語教育研究 第1号』,pp.1-12

平高史也（2006a）,「言語政策としての日本語教育スタンダード」,『日本語学』25巻13号,pp.6-17

平高史也（2006b）,「相互理解のための日本語 日本語教育スタンダードの構築をめざして」,『遠近 第12号』, 山川出版社,pp.49-53

文化審議会国語分科会（2010）,『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』

文化審議会国語分科会（2012）,『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について』

真嶋潤子（2007）,「言語教育における到達度評価制度に向けてーCEFRを利用した大阪外国語大学の試みー」,『間谷論集第1号』,pp.3-27

真嶋潤子（2010）,「大学の外国語教育におけるCEFRを参照した到達度評価制度の実践ー大阪大学外国語学部の事例を中心にー」,『外国語教育フォーラム 第4号』,pp.3-12

山本冴里,新井久容,古賀和恵,山内薫（2010）,「『JF日本語教育スタンダード試行版』における複言語・複文化主義ー日本の言語政策の『異なる可能性』を探るー」, 細川英雄・西山教行編『複言語・複文化主義とは何か ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』,くろしお出版,pp.107-118

吉島茂,大橋理枝他（2004）,『外国語学習Ⅱ 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』,朝日出版社

27

ご清聴ありがとうございました。

28